



配管

写真左から) 佐藤琢磨ものづくりマイスター、受入担当者の小林孝雄校長、受講者の竹内研二さん

ものづくりマイスター派遣先



北海道認定 網走地方高等職業訓練校

〒093-0045 北海道網走市大曲 1-1-4

学校長 小林 孝雄

創立・沿革

昭和 33 年 北海道技能者養成協会北見支部網走分会として発足

昭和 45 年 網走高等職業訓練校となる

昭和 56 年 網走地方高等職業訓練校と改称

平成 1 年 網走市能力開発センターの竣工に伴い移転

平成 26 年 網走市能力開発センターの施設移転に伴い移転

学 科:配管科、建築塗装科、建築板金科、木造建築科、左官タイル施工科、

電気工事科、鉄筋コンクリート施工科、サッシ・ガラス施工科

卒業生総数: 1429 名

教職員数: 33 名 (H27.8 取材当時)

網走地方高等職業訓練校では、「働きながら技能・技術を創造するプロの育成」をミッションとし、企業に就職し働きながら専門分野の知識や技術を習得するための講義を行っています。配管科には4事業所から7名の訓練生を受け入れていますが、当校で学ぶ訓練生に更なる高度な技能を習得する機会に触れてもらうため、「ものづくりマイスター制度」を導入することにしました。

期間	8月～11月
実施場所	網走地方高等職業訓練校
受講者数	7名

顧客のニーズに対応し 創意工夫できる技術を指導

ものづくりマイスター 佐藤琢磨

ものづくりの感覚を 自分の体で覚える力をつけさせる

指導に当たっては、受講者とのコミュニケーションを大切に、距離感を縮める環境作りを心がけました。受講者全員が、技能検定の受検を目指しておりましたので、検定で製作する課題の作り方を中心に、指導を進めました。まずは制限時間等を気にすることなく、課題見本を見て、自分が作るものを立面で記憶し、その上でじっくりと試行錯誤を繰り返しながら課題を作ることで、ものづくりの感覚を体で覚えさせるようにしました。

実際の仕事では、依頼の内容により作業の方法が異なるため、あらかじめやり方が分かっているということはほとんど無く、その場で自分の能力と経験をフル活用しながら、顧客のニーズに対応していく力が必要だからです。その力さえ身につければ、後から制限時間内に作業を終える方法は、比較的容易に掴めます。

自ら解決策を考えることが モチベーションと学習効果を高める

配管施工作業の経験年数に個人差があったり、身につけている技能もそれぞれ異なっていたため、受講者全員のレベルを把握し、それぞれの苦手な部分を補強しながら、全体のレベルアップをしていくための指導時間配分に苦労しました。特に、未経験の受講者と、数年間の経験のある受講者のレベル差を埋め、全員の技能を、技能検定合格レベルにまで到達させることは容易ではありませんでしたが、それでも焦ってやり方だけを教えるのではなく、できるだけ、受講者が自ら解決策を導き出せるような、指導やアドバイスを心掛けました。「教わったことを覚える」よりも「自分で考えて先に進む」ほうが、確実にモチベーションも上がりますし、学習効果も高くなるからです。

実習を進めていくうちに、課題が早く終わった受講者が行き詰まっている受講者に対して、自分のやり方や知識を説明するなど、互いに情報交換している光景

が多く見られるようになりました。受講者が、ものづくりに対して興味を持ち、自発的に課題解決をする習慣をつけていると感じられ、とても嬉しく思いました。

ものづくりに関わることの 達成感を感じられる環境を作りたい

設備業界に限らず、ものづくりの業界全体を盛り上げていくためには、ものづくりに興味を持ち、その楽しさや、向上心を持てるような環境作りが大事だと思います。そのためには、基礎から体系を立てて学べるようなカリキュラムを作り、スキルアップする楽しさや、ものづくりに対する達成感や満足感を感じてもらえるような工夫をしていく必要があります。また、そのような環境をベテランの技能者が作っていくことは、自身のスキルの整理と再確認にもつながり、大変勉強になることですので、若手だけでなく、その業界に関わる技能者全員にとって意味のある活動だと思います。



ものづくりマイスター

佐藤 琢磨 (さとう たくま)

昭和 36 年 1 月 3 日 生まれ

平成 4 年度 1 級技能士 配管 (建築配管作業) 取得

平成 26 年度 厚生労働省ものづくりマイスター (配管) 認定

高い技能と豊富な経験を持つ「プロ」の直接指導が受けられる

受入担当者の声

働きながら専門分野を磨く

当校のカリキュラムに効果抜群の制度

北海道職業能力開発協会で開催された人材育成機関等が参集する会議で説明を受け「ものづくりマイスター制度」を知りました。後日、地域技能振興コーナー担当者から制度の詳しい活用法を聞き、技能者養成には大変効果的だと感じたため、当校の訓練生に対する指導の中に、「ものづくりマイスター制度」を取り入れる事にしました。

高い技能を持つマイスターの直接指導が受けられる、貴重な機会

当校は、長年、外部の技能者を招いた指導を実施しており、ものづくりマイスター受入れに関して苦労することはほとんどありませんでした。むしろ、普段は現場で働いている受講者が、全日程に出席できるか、練習時間と業務時間との調整はきちんとできるかが心配でした。

しかし、どの受講者の派遣事業所も、高い技能を持つものづくりマイスターの指導を直接受けられることが、個々の技能向上につながる貴重な機会であることをすぐに理解し、受講者が講義に出席する時間の確保に、全面的に協力していただきました。

技能の向上だけでなくプロとしての意識も教わることができる

今回のカリキュラムでは、ものづくりマイスターの現場経験を踏交えた高度な実技指導により、効果的な技能の継承や技術力の向上を図ることができました。

また、受講者にとっては、技能の向上だけではなく、プロとしての意識を芽生えさせ、これからの技能者としての心構えも教わることができる大切な機会になったと感じています。今回の「ものづくりマイスター制度」の活用は、講習内容を技能検定取得を目標としたこともあり、受講する側も意欲的で真剣に取り組む姿勢があり、良い成果を出すことができました。この結果を踏まえて、他職種でも「ものづくりマイスター制度」を取り入れ、活用していこうと考えています。この制度の利点を多くの人材育成をしている機関等に知って頂き活用していけば、大きな成果を挙げる事ができると確信しています。



写真上、中、下) 実習風景

仕事の現場で学んだことと学校で教わったことが結びつく

受講者の声

仕事の現場で学んだことを学校で復習し、理解につなげる

受講の動機は、教わった技能や技術を実際の仕事の中で活かせることや、技能検定に合格することで、より仕事の幅を広げたいと思ったからです。

特に効果があったことは、仕事の現場で覚えたことを、改めて講義の中で再確認でき、確実に自分の技能にしていけたことです。

現場では、どうしても作業を早く正確にこなすことが中心となりますので、学校で時間をかけて復習できることが、非常にありがたかったです。

プロの仕事のやり方をじっくりと観察し、学ぶことができる

私は、練習の中で「ねじ切り」の作業が得意ではありませんでした。硬く継手が入りづらいねじが多かったのですが、現場では、先輩の作業をじっくりと観察し、質問や指導を受ける時間は中々ありませんでした。

講義の中で、佐藤マイスターのやり方を目の前で見て実践することで、改善点に気づくことができました。

プロとしての仕事の姿勢を考え身につけることができた

「自ら解決策を考え、実践する」という佐藤マイスターの教え方は、この職業の奥の深さや難しさなどを考えるきっかけにもなりました。講義の中で学んだことを現場で活かしていくのは、あくまで自分次第です。基礎の一つひとつを、妥協することなく自分のものに

することで、難しくシビアな作業にも、積極的に取り組んでいけることを、身をもって理解しました。

自分にとって効果的な学習方法を身につけることができる

佐藤マイスターからは、実践的な指導を受けることができ、普段の仕事の中で活かせることがとても多かったです。自らやってみることは一番大切なことですが、どうしても解らないときなどは、佐藤マイスターに質問しながらできたので、とてもためになりました。

また、自分にとってどのような学習方法が良いのか、どのような考え方をすれば、解決策を生み出せるのかといったことは、日々の仕事の多忙な時間感覚の中では、なかなか考えることができません。佐藤マイスターの指導は、そのようなことを落ち着いて客観的に考えることができました。今後、職人として成長するための良い機会だと思うので、ぜひ多くの人に受講を勧めたいです。



写真) 実習風景

【地域技能振興コーナー担当者より】

今回、網走地方高等職業訓練校の訓練生がものづくりマイスターの指導を受け、技能者としてだけでなく、職人として人間的に成長した姿を、訓練生が所属する各事業所の方々にもお見せすることができましたので、多くの関係者に制度の効果や有用性を実感して頂く、よい機会になったと感じています。外部の方を招いて指導を受けるということは、実行してみれば必ずよい結果につながると確信していますので、ぜひ相談に来て頂きたいです。コーナーからも積極的に制度の良さを広めて、導入の働き掛けをしていきたいです。

カリキュラム

	指導日	指導内容
1	9/5	資材確認、ねじ切り
2	9/26	塩ビ管の配管
3	10/21	銅管の配管作業
4	10/31	水圧、課題の精度の確認作業
5	11/25	課題の水圧テスト、課題の精度確認 分別解体作業、施工作業の細部確認